



明和病院だより



2017年7月号



(1) 新任医師のご紹介 (平成 29 年 7 月 1 日付)

★明和キャンサークリニック 放射線治療科 菱川 良夫(統括部長)

7月より、キャンサークリニックに勤務することになりました菱川良夫と申します。兵庫医科大学で放射線治療を学び、その後、粒子線治療を20年あまりしていました。放射線治療は、使い方によってすごいがん治療になります。常に世界一を目指してきたので、クリニックで地域医療の中でそれを実現します。

・専門：放射線治療

★形成外科 上田 美怜(医員)

7月よりお世話になります形成外科の上田美怜と申します。前勤務先は神戸赤十字病院でした。1年半ほど前にもこちらで勤務させていただいておりました。今回、再度こちらで勤務できること、大変嬉しく思います。地域の皆様に喜んでいただけるような医療を提供できるよう、丁寧でわかりやすい診察と患者さまに寄り添った診療を目指します。どうぞよろしくお願ひ致します。

・専門：形成外科一般

★腎・透析科 川田 博昭(医員)

7月より腎・透析科に勤務させて頂く川田博昭と申します。先月までは宝塚市立病院に勤務していました。地域の皆様に貢献できるように頑張りますので、宜しくお願い致します。

・専門：腎臓、透析全般

(2) 医師から皆様へ〈 麻酔について 〉

手術を受けられる患者様にとっての心配事には、麻酔から覚めないのではないか？手術中に覚めてしまうのではないのか？(麻酔が効かないのではないのか?)という事があると思います。



麻酔から覚めない場合のおもな原因は、手術中に脳への酸素供給が低下し脳の障害が起こることです。

その原因として、手術中に大量出血や心臓病などのために血圧が下がっ

てしまい、脳に血液を十分に送ることができなくなる事が原因の一つと考えられています。このような事が起きないように、麻酔科医は常に患者様の血圧、心拍数などの生理状態を観察し、異常がみられれば、点滴、輸血、薬剤の使用により管理を行います。

もう一つ脳への酸素供給が低下する原因として、呼吸のトラブルによる血液中の酸素量の低下が考えられます。



麻酔中に使用するモニターに、パルスオキシメーターというものがあります。これは、肉眼では分からないわずかな酸素不足の状態を早期に発見できる機械です。この器械の普及により、手術中の低酸素による心停止の発生頻度が大きく低下しました。また、麻酔中は常に息の中の二酸化炭素を測定し、呼吸に異常がないか観察しています。

次に頻度の多い手術中に目が覚めないか？麻酔が効かないのでは？という不安ですが、これも器械の進歩により解決されてきました。当院では、全手術室に BIS という器械を導入しています。これは額に貼り付けたシールで脳波を持続的に測定し、それを解析して眠りの深さを数値であらわす器械です。その数値を常に観察しながら薬の投与速度を調節し、適切な麻酔の深さを維持します。そのため手術中に覚醒することもなく、薬の過量投与も防げるので手術終了後に速やかに覚醒します。

このように、麻酔薬の開発、麻酔技術の進歩、モニターの開発などにより、麻酔によって死亡する率は低くなり、安全に麻酔をうけられるようになってきました。日本麻酔科学会の統計では、10万人に約1人の率で麻酔が原因で死亡されていると報告されています。交通事故による死亡が1万人に約1人といわれているので、いかに安全になってきたかご理解いただけるでしょうか。麻酔が絶対に安全だと言うことはできませんが、安全を心がけて、安心して手術を受けていただけるよう、当科では麻酔、全身管理を行っています。

麻酔科 医員 木田 樹里

(3) 医療講座(公民館主催)のお知らせ

- ・演 題 : 高齢者で気をつける皮膚病
- ・講 師 : 皮膚科部長 黒川 一郎
- ・日 時 : 7月10日(月) 14:00~15:30
- ・場 所 : 学文公民館(Tel41-6050) ※無料(参加自由)



(編集発行人：事務部長 沖田 明弘)